

保護司の方からうれしい話をききました。保護司会では、「社会を明るくする運動」の一環として、小中学生の作文を募集したのですが、その中の何人かが、「海洋教育を受けて、海の環境をきれいにしていきたいと思った」という趣旨の内容を書いていたそうです。子どもたちの海に対する関心の高まりを感じました。



9月28日(木)に、岬陽小学校4年生が、JAMSTEC(海洋研究開発機構)の見学を行いました。

最初に、JAMSTECの方の説明を聞いた後、施設を見学しました。



ちょうど、整備に来ていた「しんかい6500」の実物を見ることができました。そのほか、ふだんは見られない深海巡航探査機「うらしま」の実物も見ることができました。ブタメンのカップを使った深海の圧力の実験では、圧力でカップが小さくなると、大きな歓声が上がっていました。子どもたちは、展示物等にたいへん興味を持ったようで、「しんかい6500」はどれくらい潜っているのか、などの質問をしていました。



10月10日(火)には、上宮田小学校5年生もJAMSTECを見学することになっています。



9月29日(金)には、初声中学校の2年生が、煮干しの解剖に続いて、イカの解剖に挑戦しました。材料のイカは、本研究所が、海洋教育仲間の能登里海教育研究所の紹介で、日本海の冷凍イカ(石川県小木町より)を送ってもらったものです。

まず、最初に、イカをはさみで切っていきます。エラや肝臓を観察した後、消化管を見やすくするために、口から醤油を流し込みます。すると、食道や胃もはっきり見えてきます。



イカの目は、人間の目の構造と似ているようで、水晶体や脳も確認できました。

子どもたちは、歓声や悲鳴を上げつつ、真剣に取り組んでいました。解剖終了後、イカを焼いておいしそうに食べていました。



旭小学校の水槽には、相変わらず、イセエビやハコフグをはじめ、様々な種類の海の生き物が飼われています。

イセエビがカラスガイを食べたあとや、ゴンズイがウツボを追い出してウツボに入ってしまった様子などが見られます。

(文責 事務局長 渋谷)

海洋教育についてのお問い合わせは、本研究所まで (046-854-9443)